

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」



事業実施報告書


- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 城陽市立青谷小学校 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ・Ⅴ 】
2 実施対象者	城陽市立青谷小学校 第6学年児童 41名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 教科名（総合的な学習の時間）
4 目標 (ねらい)	(1) パラリンピック競技を体験し、スポーツへの関心を高めるとともに、スポーツを通じて様々な人々と交流できる児童を育成する。
5 取組内容	(1) 実施日時 令和3年12月21日（火） 13:40～15:25（5、6校時） (2) 講師 城陽市ボッチャ協会 塚脇 康宏 氏 協力：京都ボッチャ協会、京都障害者スポーツ振興会 NPO 法人京都スポーツ・障がい者スポーツ推進協会 (3) 内容 ①挨拶、ボッチャとそのルールの説明 ア パラリンピックの正式競技種目である。 イ 障がいの有無や年齢、性別に関係なく、誰もが楽しめる。 ウ ジャックボールにどれだけ自分たちのボールを近づけられるかを競う。 ②各チーム投球練習 ③各チーム練習試合 3～4人のグループを6グループづくり、2試合実施 ④振り返り、挨拶



	
<p>6 主な成果</p>	<p>(1) ボッチャが障がいのあるなしや性別に関係なく、子どもから大人まで楽しめる共生スポーツであるなど、競技について正しい理解をすることができた。</p> <p>(2) 多くの児童がスポーツを通して交流する喜びを感じ、スポーツへの関心を高めることができた。</p>
<p>7 実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) 例年校内で計画している「障がいについての理解教育」の実施時期や「人権週間」と同時期にすることで、差別や偏見のない人間関係づくりや一人一人の人権を大切にする態度の効果的な育成を意図した。</p> <p>(2) 障がい者理解教育とスポーツへの関心の高まりをねらいとし、講話と体験を予定していたが、十分な時間がなかったため、体験の方に重点を置いて実施し、充実した45分となるようにした。</p>
<p>8 主な課題等</p>	<p>(1) 今年度は6年のみを対象とし、単発的に体験を実施するような形となった。総合的な学習の時間や特色ある教育活動において指導計画を見直す必要がある。</p> <p>(2) 講演や体験の日程調整が計画書の作成後となり、来ていただく講師の方が複数になると、謝金が経費予定額を上回ることもあり、対応が難しかった。</p>
<p>9 来年度以降の実施予定</p>	<p>(1) 他学年においても今回のような体験を計画し、スポーツを通して様々な人と交流する喜びを感じ、スポーツへの関心を高められるように努めたい。また、体育部と連携して体力向上の取組につなげたい。</p> <p>(2) 特別支援教育部と連携し、パラリンピック競技の体験等により障がい者理解教育をより深められるように努めたい。</p>



白球を狙って、慎重に投球する6年生たち

城陽市ボッチャ協会「体験会」

赤VS青 楽しく熱き戦い

青谷 小学校

6年生「逆転のスリル」

城陽市立青谷小学校（江上新一校長、193人）で21日、東京パラリンピックの正式種目として注目を集めた「ボッチャ」の体験会が開か

れ、6年生41人が障害の有無や年齢に関係なく楽しめる競技の魅力を感じた。

来校したのは、昨年11月に落成したばかりの城陽市ボッチャ協会の塚脇康宏会長をはじめ、京都ボッチャ協会の平木新助会長、一般社団法人京都障害者スポーツ振興会の中村芳道事務局長らゲストティーチャー陣。

ボッチャは、赤と青のチーム（一般的には3対3）に分かれ、コートの中の白球を狙って自チームの色の球を交互に投げ、全て投げ終えた時点で白球に近い方が勝ちで、相手より近い球の個数分だけ得点が入り、エンドが終了する。6回のエンドの総得点で勝敗を

決める。

ルールはカーリングに似ているが、投げた球で白球が弾かれて動いてしまつと、形勢が一気に変化する。狙いを定める投球術はもちろん、運も

勝敗を左右するスポーツで、この日の体験会でも、児童らは大逆転でできる面白さに魅了された。体験した6年生のうち、奥田福央くん・神原

福斗くん・黒木陽菜梨さん・富田夏鈴さんの4人は楽しかった。また、やってみると「声を揃えて投げる」と声を揃えて投げる初めに球を投げる力加減が難しかった様子だった。

なお、市ボッチャ協会では来年3月6日（日）に城陽市民体育館で、第5回城陽市民ボッチャ大会を開く。前回まで市レクリエーション協会が主

管していた催しを引き継ぐという。市内在住・在勤・在学者を対象に、定員12チーム（1チーム3人）で参加申し込みを受け付中。問い合わせは市教委文化・スポーツ推進課 075-4048まで。

そのほか、市内各地で開かれているボッチャ体験会への問い合わせは塚脇会長の携帯090-8755-0554へ。

新AET7人が市長挨拶

城陽市 小中学校で英語指導

暫定的に14人体制

新型コロナウイルスの影響で入国できなかったAET（英語指導助手）が9月以降、順次来日し、目標だったJETプログラムでの10人体制「そのほか民間から4人配置」が整ったことを受け20日、市長挨拶の場が設けられた。

今回、来日したAETは▽スペインサー・ラシエ

ル・マリーさん（27）
米国人女性▽バクストン・イザベラ・コルドバさん（22）
米国人女性▽ジョン・ソフィア・ソヒョンさん（27）
米国人女性▽タン・ジョサイヤ・アーエンさん（25）
カナダ人男性▽ワン・アンドリュウ・チャールズさん（27）
米国人男性▽タン・サイモン・

キエットさん（22）
米国人男性▽ワナー・ナザエル・ライアンさん（24）
米国人男性1人の。

渡米経験豊富な奥田敏晴市長は「皆さん日本語が上手でびっくりしました。まだまだコロナで大変ですが、12月に入り城陽市では、ほとんど感染者が出ておりま